

マレーシア「日本語教育国際研修Ⅱ-B」レポート

下田樹（文責）、那須珠実、田中緑莉、鄭茉莉

2018年2月23日から3月18日にかけて、マレーシアで実施した日本語・日本文化学類開設科目「日本語教育国際研修Ⅱ-B」に、日文学類2年生4名が参加しました。本実習は、国際交流基金「H29年度 海外日本語教育インターン（大学連携日本語パートナーズ派遣プログラム）」の協力のもとで実施した日本語教育実習です。主にマレーシアのジョホール州（Johore）にあるマレーシア工科大学（University Technology Malaysia, UTM）で行われ、期間内には同市内の中学校でも日本語の授業を行いました。3週間の実習の様子を紹介します。

3週間ある実習のうち、最初の1週間は中学校での授業見学と教壇実習、2週目は大学の授業見学、最後の週は大学での教壇実習でした。実際に授業をするのは初めての経験だったのでドキドキでしたが、授業見学で楽しそうに日本語を学ぶ学生の姿を見たこと、先生方に「好きにやっついていいよ、楽しんで」と背中を押してもらったことで、肩の力が抜け、なんとか授業をすることができました。授業の計画を立てるときは、学生が飽きないよう、アクティビティを取り入れるなど工夫をしました。特に大学の授業は100分と長く、教案を考えるのもとても大変でした。実際に授業をしてみて、時間配分がうまくいかなかった、指示がうまく伝わらなかったなど各自反省点も残りましたが、それも含めて非常に貴重で大切な経験をさせていただけました。

また、中学校と大学それぞれで、授業とは別に、日本文化を紹介する時間もいただきました。日本文化や筑波大学についてのプレゼンテーションをしたり、習字、浴衣の着付け、折り紙や福笑いのような遊びなどを体験してもらったりしました。中学校と大学それぞれに合わせて発表内容を変えたので準備は少し大変でしたが、みなさんに喜んでもらえてよかったです。

授業がない週末にはクアラルンプールやシンガポールに見学に行きました。クアラルンプール見学の際には、UTMのクアラルンプールキャンパスにあるマレーシア日本国際工科院（MJIT）及びMJIT内にある「筑波大学クアラルンプールオフィス」を訪問しました。就職やインターンシップで来日する予定のUTMの大学生とも交流することができました。また、JICAの青年海外協力隊員としてMJITで日本語教師をしている日日の先輩ともお話しできて、自分の将来を考える機会をいただき、大変有意義な時間になりました。

授業以外にも毎日が新鮮な体験の連続でした。その一つが料理です。マレーシアの料理は辛いものが多く、はじめはびっくりしました。辛いものが得意ではないので、辛いものをお教わってもらって食べていたのですが、どれも本当においしかったです。辛い物が好きだったらもっといろいろな料理に挑戦できたのに、と思うと少し残念でした。また、マレーシアは多民族国家なので、マレー料理、中華料理、インド料理などいろいろな国の料理を食べる

ことができたのも嬉しかったです。

そして、中でも一番心に残っているのが、マレーシアの人たちが本当に優しくかったことです。学生のみなさんは、授業の時に真剣に話を聞いてくれたのはもちろん、笑顔で挨拶をしてくれたり、一緒に写真を撮ってくれたり、私たちが温かく受け入れてくれました。UTMのゲストハウスに滞在していたので、学生のみなさんが買い物やご飯に連れて行って、週末の見学にも一緒に来て案内をしてくれました。授業の時間だけではなかなかじっくり話すことができなかったのですが、こうした機会を通してとても仲良くなれたので良かったです。いつかまた彼らに会いにマレーシアに行くことができればいいなと思います。

授業の準備など大変なこともありましたが、振り返ると、感想が「楽しかった！」しか出てこないほど充実した3週間でした。そしてもちろん、自分の将来に繋がる貴重な経験もたくさんさせていただきました。この経験を生かしていけるように、これからも頑張っていきたいと思います。関わってくださった全ての方に本当に感謝しています。ありがとうございました！